古事記

高天原

日本には自然の木や石、水、あらゆるものに神様が宿るという考えがあります。そして目の前の現象だけに振り回されず、自分の良心に従い真心を尽くす生き方が自然と受け継がれています。
祖先から受け継いだ宗教を超えた「おてんとうさまがみているよ」という子供でも分かる教え、
それは『古事記』の神々から学んだものでした。
日本で一番古く、国家が編纂した公的な歴史書を個人の表現でお伝えしています。
至らない点はどうかご容赦の程、宜しくお願い致します。

《やんちゃ弟とおあねいさま》

スサノオに任せた国造りの様子を見にやってきたイザナギはもうびっくり。
「おまえなにしているんだ!!」
スサノオは言いました
「かあちゃんに逢いたいよぉ」
「！！！！」
「かあさんは黄泉の国に行って帰らないし、
・・・っていうか、お前は父さんの鼻から生まれたんだから厳密に言うとイザナミは母さんでは無いんだが・・・」
親の愛にはえこひいきはありません。
ただ、かわいがる方法が違うだけです。

ナギ父は愛をもって
『そんなに言うならこの国から出て行け!!』とスサノオと追放してしまいしました。
追放されたスサノオは黄泉の国に行く前
おねいちゃまにあって事情を話しておこうと考えて
天照大神のいる高天原へまいのぼっていくことにしました。

一般的に
スサノオちゃんが高天原に来た時に
アマテラスおねいさまは高天原を奪いに来たのではないかと不振に思って
武装した男のなりをしてスサノオを威嚇したといわれています
そのなりっていうのが
背には千本、わき腹には五百本の矢を入れる武具をつけて
緒には五百個の勾玉を貫いた長い玉飾り
強弓に矢を引き絞りスサノオに詰問します
ψ(｀+´)ψ　　ψ(｀+´)ψ　　ψ(｀+´)ψ
『何しに来た・・・』(o｀Д´#)σ=σ　と

・・・実はこれって誤解なんです
(￣ε￣〃)b
アマテラスちゃんの本心はね

お姉ちゃまだもの∞∞(*^▽^)∞∞
かわいい弟がはるばるやってくるし
お父様に叱られて
自分を頼りにくるっていうことのなりゆきなんか
高天原からおみとおしよ(￣▽￣)

だから
「きゃぁスサちゃんがくるわぁ♪」
(((o(*ﾟ▽ﾟ*)o)))

「何をごちそうしてあげようかしら♪」
(((o(*ﾟ▽ﾟ*)o)))

「ああたくさんお話のしたいし♪(´ε｀)
つかれているなら、
ゆっくりと休めるお布団も用意してあげないと」
”(*/▽＼*))))))ｲﾔ――――ﾝ

「私のかわいい、すさちゃ～ん」
((((((/´3`)/ﾁｭﾁｭﾁｭｩｳｳｳｩ!!
ってテンションあがったのね～

でもね
アマテラスはそこで、はっと気が変わったわけよ((((ﾟOﾟ))))

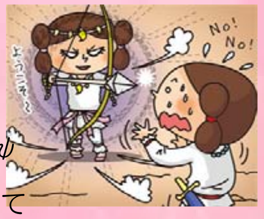
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

暴れん坊のスサノオが舞い上ってくるってことで
八百万の神たちがあたふた((((；ﾟДﾟ)))))))している中
『おねえちゃ～ん♪』
･゜ﾟ･:.｡..｡.:*･'(*ﾟ▽ﾟ*)'･*:.｡. .｡.:*･゜ﾟ･*

喜び勇んでスサノオは高天原にやってきました

けれど・・・・・
・・・・・あれっ？？？・・・・
・・・・・なんか、様子がおかしいぞ(´ﾟ ωﾟ`)ｼｮﾎﾞｰﾝ
・・・・・ただならぬ気配(￣◇￣;)

スサノオはアマテラスの姿を見た瞬間に
全身に冷水を注がれた気持ちになります。
||||||||ｍ[◎凸◎;]ｍ||||||||ギョエッ!!



スサノオの前に現れたアマテラスは・・・
ジャ～ン
めっちゃかっこいい男神にヘンシ～～ン
｡･ﾟﾟ･Σ(￣―￣ﾉ))))ﾉ･ﾟﾟ･｡
手には千本の矢
背中には五百本の矢を入れる筒ψ(｀―´)ψ
そして
太ももまで泥に埋もれるほど足を踏ん張って
「何しにきた！！」
と、スサノオを威嚇したのです
||||||||ｍ[◎凸◎;]ｍ||||||||ギョエッ!!

八百万の神々はまたまたびっくり ((((；ﾟДﾟ)))))))
あたふた　あたふた
ε=ε=ε=ε=ε=ε=┌(;￣。￣)┘

スサチャンLOVEから
強面の男神に変身した
アマテラスちゃんの心境の変化はなんだったと思いますか？
d(￣　￣)

これはもう大和心の塊なんです（´-`）

それにしても
スサノオって
やんちゃの限りをつくしても
愛されてますね～

この愛の意味は次回にね

きじこ（紀事古）でした～
(⌒▽⌒)ﾉ""ﾏﾀﾈｰ!!

感動実話

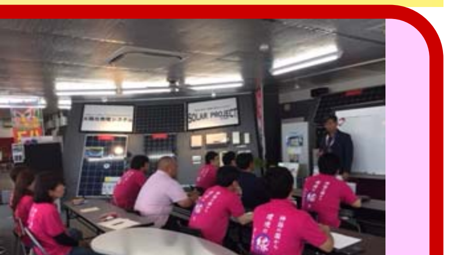
作家の故三浦綾子さんの実話です。

三浦さんの人生は難病の連続でした。
二十四歳で突然高熱に倒れたのが発端でした
それがその後、十三年に及ぶ肺結核との闘病の始まりで
当時、肺結核は死に至る病でした
入退院の繰り返しの中で、三浦さんは自殺未遂も起こしています
さらに悲惨が重なる。脊椎カリエスを併発。
ギプスベッドに固定され、動かせるのは首だけで寝返りもできず、
来る日も来る日も天井を目にするのみ。
排泄も一人ではできず、すべての世話はお母さんがしました
そんな生活が四年も続いたとは想像を超えます
そこに一人の男性が現れて結婚を申し込みました
光世さんです
その日から薄皮を剥ぐように快方に向かい、二人は結婚しました
綾子さん三十七歳、光世さん三十五歳でした
そして綾子さんの書いた小説『氷点』が新聞社の懸賞小説に当選、作家への道が開けました
しかし、その後も病魔はこの人を襲い続けます
紫斑病。喉頭がん。
三大痛い病といわれる帯状疱疹が顔に斜めに発症、鼻がつぶれ、
それが治ったと思ったら大腸がん。
そしてパーキンソン病。
この二つを併発している時に、初めてお会いしたのです
次々と襲いかかる難病。それだけで絶望し、人生を呪っても不思議はありません
だが三浦さんは常に明るく、ユーモアに溢れていました
「これだけ難病に押しかけられたら、普通の人なら精神的に参ってしまいますね」
という質問に三浦さんは笑顔で答えました

「神様が何か思し召しがあって私を病気にしたんだと思っています。
神様にひいきにされていると思うこともあります。特別に目をかけられ、特別に任務を与えられたと……。いい気なもんですねえ（笑）」
誰の人生にも絶望的な状況はある。だが、心が受け入れない限り、絶望はありません
同様に、誰の人生にも不幸な状況はあります。しかし、心が受け入れない限り、不幸はないと
三浦さんの生き方はそのことを教えてくれているように思います
その三浦さんがこんな言葉を残しています
「九つまで満ち足りていて、十のうち一つだけしか不満がない時でさえ、
人間はまずその不満を真っ先に口から出し、文句をいいつづけるものなのだ。
自分を顧みてつくづくそう思う。なぜわたしたちは不満を後まわしにし
感謝すべきことを先に言わないのだろう」

致知出版社『心に響く小さな５つの物語』第２巻より

講師をお招きして社内セミナーを開催しました。
『愛』と『感謝』を再確認してから
みんなで体操教室。
これからも心も身体も健康で、
お仕事頑張ります!!



嘉藤主任の背が伸びちゃった!!
神話の国から
環境の縁
ひろげます